

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: osk\_CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.23)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府動物愛護管理センター(仮称)	階数	地上2F
建設地	大阪府羽曳野市尺土1108の一部他	構造	RC造
用途地域	用途地域無指定、22条地域	平均居住人員	20人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2015年10月1日
敷地面積	9,524 m <sup>2</sup>	作成者	大建設計 松岡 英緯
建築面積	2,017 m <sup>2</sup>	確認日	2015年10月1日
延床面積	2,556 m <sup>2</sup>	確認者	大建設計 西端 賢一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み: 94% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>③上記+②以外の: 94%</p> <p>④上記+: 94%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.4</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.9</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.4</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 4.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.4</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.6</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>敷地形状を活かしたコンパクトな建物とし、周囲の景観と調和した、親しみのある建物とした。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>0</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>執務空間は大型の開口部とし、事務室の昼光率は2.0を確保している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>天井高さは2.7mを確保し、階高にもゆとりを持たせている。また動物を扱う施設であるため、耐久性や防汚性、清掃の容易さにも最大限配慮を行っている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>敷地面積の20%以上の緑地を確保し、多目的広場として利用者が自由に使える空間を整備している。また建物形状や開口部、外壁の色彩を周辺環境と親和性のあるものとし、緑豊かな羽曳野の景観との調和を意図している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>クールビットシステムを導入することで夏季は予冷、冬季は予熱した外気を空調に利用し、空調エネルギーの削減を行う。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>RC躯体と内装仕上げは容易に分別可能な取組みとし、資源の再利用可能性の向上に寄与している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>雨水流出抑制のため、基準を上回る容量の雨水貯留槽を整備したほか、周辺交通への影響を緩和するため、バス滞留スペースや大規模な駐車場の確保などを行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

## 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H27-0059

Osakafu-新築・既存 2015V1.02

<b>【建物概要】</b>	建物名称	大阪府動物愛護管理センター(仮称)新築その他工事					
	建設地	大阪府羽曳野市尺土1108の一部他7筆、蔵之内729の一部他2筆					
	用途/区分	事務所 工場					
<b>【評価結果】</b>	CASBEE 総合評価					A	
	CO2削減					3	
	省エネ対策					3	
	みどり・ヒート アイランド対策					3	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	○
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない

<b>【評価項目】</b>							
省エネルギー対策		① CO2削減					
		② 省エネ対策					
項目		評価内容				スコア	評価
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.2	3
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価			建物全体	3.0	3
					住戸・宿泊		
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.0	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				3.0	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策					
項目		評価内容				スコア	評価
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0	
その他							
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項		
		クールピット			地熱を有効利用できるよう、通気経路を長く確保した。		
特に配慮した事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地面積の20%以上の緑地を確保した。</li> <li>建物形状や開口部、外壁の色彩を周辺環境と親和性のあるものとし、緑豊かな羽曳野の景観との調和を重視した。</li> </ul>					